企業ガパナンス部会第19クール月例セミナープログラム/サマリー(2023/09~2024/08)(ver.26) 統一テーマ:実効性あるコーポレートガパナンスに貢献できる社外取締役・監査役になるために

2024.03.04 企業ガバナンス部会

No.	開催日	テーマ	講演者	視点	摘要	備考
1	2023.09.13(水) 14:30~	PE(投資家)の立場から見た コーポレートガバナンスの課題について	インテグラル㈱ 代表取締役パートナー 山本 礼二郎 氏	同社では創設以来31社を買収している。この中で最大の案件が「スカイマーク」。山本代表ご自身も創業者のお一人であり、できるだけ実例を挙げて、アカデミックではなく現場の話を中心にご講演頂く。	hybrid	テーマ決定、日程確定、 開始時間要注意
2	10.20(金) 14:00~	長期投資家が社外取締役に期待していること ~『働く株主®』現場の実態から~	みさき投資 マネージングダイレクター 中尾 彰宏 氏	みさき投資は長期投資家/働く株主のとしてのユニークな視点で投資業界でも注目を浴びています。今回は同社の中尾氏をお招きし、「みさきの公理の」「みさきの黄金比」「超過利潤」と言った視点を踏まえ、社外取締役がどのようにCEOと向き合うべきか考えてみたいと思います。社外取締役を目指している人には必見です。	hybrid	テーマ決定、日程確定
3	11.29(水) 14:00~	最近の不祥事から コンブライアンスを考える 〜再発防止と企業文化の重要性〜	国廣総合法律事務所 パートナー弁護士 五味祐子氏	国広総合法律事務所は、危機管理、第三者委員会等による不正調査、コンプライアンスの分野で著名であり、最近では本年1月に提出された KADOKAWAガパナンス検証委員会(国販正委員、五味祐子弁護士他)の調査報告書の調査を担当されております。今回は公益通報者保護法と危機管理について2021年1月にご講演頂いた五味在子パートナー弁護士をお招きし、品質不正等が頻発している上場企業のみならず、オリンピック・パラリンピック委員会、ピッグモーターなど様々な形で発生している不祥事につき分析の上、トップの姿勢や企業文化に着目して再発防止の在り方について皆様と考えます。	ZOOM	テーマ確定、日程確定
4	12.11(月) 10:00~	パネルデイスカッション 「現役社外取締役が語る社外取締役のあり方」	モデレータ:企業ガバナンス部会長 パネリスト:社外取締役(DF会員)	最近のコーポレート・ガバナンスの進展に伴って、社外取締役によるモニタリング機能が益々重要性を増している。株主や投資家との積極的な対話の要請もあり、これ迄以上に情報収集及びその分析能力と判断力が必要とされている。そういうブレッシャーを受けつつ、正解がなかなか見つからない悩みを日頃から持っている3名の現役社外取締役に率直にお聞きする。	hybrid	テーマ決定、 メンバー確定済、日程確定
5	2024.01.31(水) 14:00~	新しい内部統制の整備運用に向けた 取締役会の留意点	明治大学 教授 柿崎 環 氏	日本の内部統制には、会社法に基づく内部統制システムの整備と金融商品取引法に基づく内部統制報告制度の二つがあり、後者は2023年に制度導入から十数年ぶりに制度改訂がなされた。今回は、内部統制に関する著書があり、内部統制改訂を行った企業会計審議会の委員や社外取締役を経験され、理論にも実務にも精通された柿崎環明治大学教授に、両制度の概要と今回の制度改訂の要点、それを踏まえて、会社や取締役会が対応するべき留意点について判りやすくご講演いただく。	hybiJd	テーマ決定、日程確定
6	02.21(水) 14:00か~	最近の社外取締役・監査役の実務課題	三優監査法人 名賞会長 杉田 純 氏	2021年6月には、コーポレートガバナンス・コードが改訂され、取締役の実効性の向上、サステナビリティをめぐる課題への取り組み、中核人材の 多様性への取り組みなどとともに、社外取締役の在り方が注目を浴びています。また、2023年4月からの東証の上場区分の再編が始まり、プライ ム市場・スタンダード市場の上場会社には「資本コストや株価を意識した経営の実現」にかかる開示や対話といった対応が求められることになりま した。こうした呼らの情勢を踏まえ、改めて社外取締役や監査役が留意しなければならない実務課題を中心に、その対応や今後の展望についてお 話頂きます。	hybrid	テーマ決定、日程確定
7	03.12(火) 14:00~	「ダイナミックケイパビリテイ論とは何か?」 ~富士フィルムの驚愕の変身と フイルムの巨人KODAKの凋落~	元富士フイルム副社長 経営倫理学会常任理事 DF会員 今井 祐氏	富士フイルムホールディングス(株)は、2000年代初頭に利益の過半を稼いでいた写真関連事業が、写真フィルムの需要急減により赤字に転落。 腰い掛かる企業倒産の危機をはねのけヘルスケア等を中心とする事業構造に転換し、快進撃(昨年度過去最高益更新・9期連続増配)を続けてい る。文字通りダイアミックケイバビリティ(DC)経営である。DC経営とはカリフォルニア大学のデイヴィッド・・リ・ティース教授が提唱した経営戦略論 である。企業が経営環境の変化に適応し、自社の事業や組織を変革する能力のことである。フィルムの巨人コダック社にはこれがなかった。何故 か。	hybrid	テーマ決定、日程確定
8	04.17(水) 14:00~	「社外取締役の活用とその評価」 ・社外取締役に求められる役割 ・社外取締役への情報提供の在り方 ・取締役会議長と社長・CEOの分離 ・社外取締役に対する評価の在り方	アンダーソン・毛利・友常事務所 パートナー 塚本 英巨 氏	本年1月に経済産業省から「社外取締役のことはじめ」が出されたことにみられるとおり、社外取締役の役割をいかにして果たすかという点が引き続き重要な課題です。今回は「社外取締役の活用とその評価」というテーマで社外取締役に求められる役割、情報提供の在り方、評価の在り方などを詳しくご講演いただきます。	hybrid	テーマ決定、日程確定
9	05.23(木) 14:00~	パネルディスカッション 「中小企業 変革を促すガバナンスは どうあるべきか」	モデレータ:世話役 パネリスト:中小企業オーナー経営者、 社外取締役、監査役	今回企業ガバナンス部会では「中小企業 変革を促すガバナンスはどうあるべきか」をパネルで考えてみたい。特に、オーナー経営者のもとでの取締役会の在り方、飲中社外取締役の役割はどうあるべきかを考えてみたい。 現在のCGコードでは、企業経営の在り方について凡そ言い尽くされているが、非上場が多い中小企業には依然遠い存在なのかもしれない。しかしながら、その精神は中小企業と言えども取り入れるべきであろう。中介者として社外取締役が期待される。	hybrid	メンバー決定、日程確定
10	06.24(月) 14:00~	優秀なCEOや経営人材の 育成方法と取締役会の役割	エゴンゼンダー 三宅 浩四郎 氏	エゴンゼンダーは、企業統治と経営人材に関するコンサルテイング・ファームで、主に企業統治アドバイザリー(取締役会評価、CEO後継者計画支援、社外取締役招聘等)、経営人材の評価・育成、経営人材外部招聘(ヘッド/レライング)を行っています。 VUCAの時代、人材、特に経営デームの強化が企業成長の難となっていますが、未だに日本企業の多くは人材のあるべき像を作らず、選定・評価・育成方法も未整備なため、経営デームが十分に強化されず、優秀な社長候補が育っていないケースが限見されます。今回の譲渡では、最新事例をご紹介しつつ、エゴンゼンダーが国内外で多様な企業の社長作りを長年お手伝いしてきた過程で得られたインサイトを共有させて頂きます。	hybrid	テーマ決定、日程確定